

あばね神輿

東谷を歩く

匝瑳探訪

— 62 —

「夏祭り」の季節になりました。その代表的なものが「祇園祭り」でしょう。祇園祭りの起こりは、869年に京都で疫病が大流行し、これを鎮めるために八坂神社に無病息災を祈願したことが全国各地に広まったといわれています。

宗教法人に登録された市内の神社66のうち、祇園社系とされるものは2社、うち1

社が東谷(平和地区)の「八坂神社」です。ここの祇園は「あばね神輿」とか、「けんか神輿」とよばれる激しいものです。

東谷地区は、1421年に開かれたと伝わる安養寺(真言宗)のあたりが字宿とよばれここを中心に集落ができ、のちに周辺の沼地や小川などを干拓し耕地が広がったことが小字名から知られます。

安養寺境内や道ばたには地域の歴史を伝える石造物があります。1663年に村の男女35人により念仏塔が建てられ、1680年造立の庚申塔(こうしんとう)には講中30人と刻まれ、この人数が当時の家数とも考えられます。

1700年以降集落周辺の干拓も進んだようで、1840年頃には家数も86軒に増えました。

押し倒されるおとな神輿

字向の八坂神社がいつまつられたかはわかっていません。明治10年代に千葉県に出された記録には、1658年に「本殿改造」とあります。安

養寺境内にも小さな社の八坂神社がまつられていることから、この年に村の鎮守として遷しまつったとも考えられます。

八坂神社境内にも1728年に奉納された手洗石や村の講中が立てた「金毘羅大権現」(こんひらだいこんげん)、「天満宮」(てんまんぐう)「石尊大権現」などの石祠(石のほこら)がまつられています。台石の部分には角田、高橋姓など造立関係者名が刻まれています。

「東谷の祇園」は、毎年旧暦の6月15日、今年7月15日に行われます。当日は、午後1時過ぎに安養寺から八坂神社まで屋台を引き回し、そこから子どもとおとなの2基の神輿が地区内を夜半近くまで練り歩くことです。

毎年、招かれた家の庭先や渡御の途中で、おとな神輿を地面に押し倒すなどし激しくもむそです。地区の人によると、「最近は少しおとなしくなったような気がするが、初めて見る人はおどろくのではないか」と語ってくれました。

「あばね神輿」を地域のたどってきた歴史と重ねながら楽しみたいものです。

岡秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

